

4—13—0

(包紙)

「安永五年申年

御書出并^ニ天明五年三月二日

午御書出し」

4—13—1

(端裏書)

「安永五年三月」

乍恐奉願口上之覚

一 此度親九右衛門義隱居被仰附私^江家統魚鳥

口錢取共^ニ被為仰附難有仕合奉存候、然所此度

被為仰出候御書出シ之内問屋共手前月々

帳面入念改ヲ請、右御定之口錢相立候様被為

仰附品^ニ候處、右帳面改之儀何方より改ヲ請申儀^ニ

御座候哉、此義私より相改候様被為仰附被為下候ハ、

第一御運上銀之御取^{ベリ}并私^江家録^ニ被為遣候

三步口錢取^{ベリ}^ニ茂相成候義何卒私より相改候様奉願候

尤月々之改^与被為仰出候得共日々之吟味^ニ而無御座候

而ハ表向一通り之売立之外莫大之陰仕事も出来候

物^ニ御座候得^者毎日私より見届人を出シ吟味仕度奉存候

并御役人様方帳面御改之儀^ニ御座候ハ、私より差上ケ

入御覽^ニ御運上銀之儀^茂無滯御上納仕度奉存候

御裁許被為仰附無間^茂儀恐多御願^ニ奉存候

得共右日改之儀偏^ニ奉願候、此段宜様御執成可被下候

奉願上候、以上

大谷政太郎(印)

安永五年

申三月日

村瀬庄左衛門様

熊沢小八郎様